第５学年　道徳科学習指導案（ユニット）

１　単元名　　公正公平に行動しよう（９時間完了）

２　構　想

（１）子どもの実態とねらい

　３学期に入り、子どもたちの中に最高学年になるという意識が高まってきている。５年生になって始まった委員会活動にも積極的に取り組み、自分やクラスのためだけでなく、学校のために活動することができるようになった。その中で、指示を受けて行動するだけでなく自分で選択し、考えて行動する場面が多くなってきている。価値観の多様化が進む現代では、自分の意見をもち、自信をもって相手に伝えられる能力が求められる。お互いの意見を出し合い、友達とともに考え、解決することがとても重要であると考える。

本学級の児童は、とても明るく活発で何事にも一生懸命に取り組むことができる。男女の仲もよく、休み時間や給食の時間には、楽しそうに会話する姿が見られる。しかし、日頃から自分の意見をもって他者に積極的に伝えようとする児童は少ない。他者の意見に流され、自分の意見を心の奥にしまいこんでしまったり、自分の意見を変えてしまったりすることがある。また、自分の仲の良い友達だから許してあげたり、友達だから助けてあげたりしようとする子がいるために、クラスの中で理不尽さを感じている子がいる。自分の利益や損得ばかり考えてしまい、他者に対して優しくしたり、誰にでも平等に接したりできていないことが原因であろう。そこで、自分の考えに自信をもって冷静に判断し、誰に対してもどんなときでも公正公平な態度で接することができるような児童を育てていきたい。

（２）単元計画

|  |
| --- |
| （１）「バスケットボール」（体育）　　　　　　　　６ |
|  |
| （２）お楽しみ会「ドッジボール」（学活）　　　　 １ |
|  |
| （３）「アンパイアの心」（道徳）　　　　　　　　１（本時） |
|  |
| （４）学年レクリエーション大会（行事）　　　　　　1 |
|  |
| （５）学校や地域での生活　　　　　　　　　　　　随時 |

・バスケットボールを通じて、ルールをも　とに審判としての冷静かつ、公正公平な判断を尊重する態度を学ぶ。

・遊びの中で、公正公平ではないと感じる場面があることを知る。

・Ｃ　公正，公平

・自分の良心に従って公平にふるまい、公正な態度で接しようとする気持ちをもつ。

・みんなが楽しむことができるルールを考え、企画運営を行う。

・自分の考えに自信をもち、どんなときでも誰にして対しても、公正公平に接するよ

うに努める。

３　本時の学習指導

1. 教材について

教材名　「アンパイアの心」（Ｃ　公正，公平）

出　典　「明るい心」（愛知県教育振興会）

　本教材は、アンパイアの公一、対戦チームのキリンクラブ・ライオンクラブの三者三様の立場が具体的なトラブルを通して描かれている。２つの対戦チームには、それぞれ言い分がある。しかし、それは自分たちのチームに有利なものであり、アンパイアとしては、たとえ友達であろうとも不公平な判断はできない。このような場面は子どもたちの生活の中にもあり、友達に対して公正公平な態度をとることは難しいと感じているであろう。主人公の公一は、友達の広への同情などの葛藤がありながらも公正な態度をとっている。また、公一は文句を言ってくる中学生に対しても、揺るがない断固たる態度で接していた。こうした公一の態度や気持ちを通して、どんな状況でも、誰に対しても公正公平な態度で接していこうという気持ちを高めたい。

（２）豊かな心とたくましさを育むための手だて

　①豊かな心を育むために

・子どもと教師で作る学習課題

資料提示後、「この話の中で、気になるところはどこですか。」と問うことで、ねらいとした価値に近づくことのできる疑問が多く挙がってくるであろう。その中で、問題意識が集中したところを挙げて、本時の課題として設定する。子どもの問題意識を基に話し合いを進め、主人公の行動とともに気持ちを考える。そうすることで、どんなときでも誰に対しても公正公平に振る舞うことの難しさや重要性について考えを深めることができるであろう。

・道徳的価値にせまるための問い返し

子どもたちから、「公一はアンパイアをやめたいと思った。」という意見が出た場合には、「もし公一がアンパイアをやめてしまったらどうなるのか。」を問い返す。そうすることで、アンパイアとして、どんな状況でも誰に対しても公正公平な態度で接することの大切さに気づくことができるであろう。

また、文句を言ってくる中学生に対する意見が集中した場合には、年上である中学生に対して、直接自分の考えや言い分を伝えることができるか問い、揺さぶりをかける。このような、価値追求型の授業展開を行うことで、公正公平という道徳的価値について理解を深め、生活に生かしていこうと行動することができる児童を育てていきたい。

②たくましい心を育てるために

・日頃の生活についての事前アンケート

授業の前に、公正公平についてのアンケート調査を行う。その結果をもとに、公正公平な態度を高めたい児童や、自分の意見に自信をもたせたい児童を抽出児に設定し変容を追う。授業後の生活や行事から、誰に対してもどんな時でも公正公平に接することができている児童を認めたり、違う教材を用いて同じ内容項目の授業を行ったりすることで、子どもたちの公正公平な態度を育てていきたい。

③２１世紀を生き抜く資質を養うために

・フレンドシップユニット

体育科のバスケットボールにおいて、審判の経験を全員ができるようにする。その経験を通して、ルールをもとにした審判としての冷静かつ公正公平な態度の大切さを知る。また、理不尽だと感じる場面と出会う、お楽しみ会を企画する。どの児童も楽しみに思うお楽しみであるが、楽しい中にも不公平な場面に出会わせるためにドッジボールの時間を設定する。さらに、公正公平な態度を実生活の中で実践できるように、学年全員が楽しむことができるバスケットボール大会を企画、運営をする。公正公平なルールを考え、誰もが楽しめるような配慮を子どもたち自ら考えられるようにする。

・実生活に生かすための役割演技

実際の生活で起こり得る場面を想定した役割演技を取り入れることで、授業で学んだことを生活に生かそうとする態度を育てることができると考える。また、授業の終末に、これからの生活についての思いを書くことで、授業で学んだことを実生活にどのように生かしていくかについて具体的に考えを深めることができる。さらに、どのような気持ちで行動していきたいかを明確にさせることで、実生活に生かせる意志や技を身につけられるようになると考える。

（３）本時の目標

①どんな場合でも、誰に対しても公正公平な態度で接することの大切さに気づかせる。

②自分の意思を強くもち、いつも公正公平な態度で生活しようとする気持ちをさらに高める。

（４）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児童の活動 | 教師の活動 |
| きづく  （5）  つかむ  (10)  ねる  (10)  ふかめる  (10)  みつめる  (5)  あたためる  (5) | １　同じようにやっているのにどうして私だけ？と思った経験はありますか。  ・妹は許されるのに、お姉ちゃんだから我慢しなさいと言われる。  ・じゃんけんに勝ったのに、鬼になれと言われた。  ・ドッジボールで当たっていないのに、当たったと言われて外野に行かされた。  　「公正公平」について考えよう。  ２　このお話の中で、気になるところはどこですか。  ・公一は審判として正しいジャッジをしているのに、怖い中学生に言い直せと言われたこと。  ・試合後、嫌味を言ってくる中学生に対して公一がくちびるをかんだまま何も言わなかったところ。  ３ くちびるをかんだとき公一はどんな気持ちだったのでしょうか。  ＜ちゃんとやったのに＞  ・ぼくは一生懸命に判断したのに、なんで文句を言われなくてはいけないんだ。  ・ちゃんと見て正しい判断をしたのに、文句を言うなんてひどい。  ・ぼくはちゃんとジャッジしたんだ。しっかり見ていないのはそっちだ。  ・なんで中学生が口出しをするんだ。  ＜やめたい＞  ・文句を言われるくらいなら、アンパイアをやめてやる。  ・文句を言うなら自分で審判をやってほしい。  ・審判なんて引き受けなければよかった。  ・怖いことを言われるからアンパイアをやめたい。  ・中学生に殴られる前にやめないと自分の身が危険。  ＜その他＞  ・自分のジャッジは正しかったのかな。変えた方がいいかな。  ・自分は正しいけれど、中学生にいろいろと言われて面倒くさいからジャッジを変えてしまうかも。  ４　この気持ちをすっきりさせるためにはどう考えたらよいでしょうか。  ・自分だけでは解決できないので、周りの大人に相談する。  ・自分の意見が正しいときちんと中学生に伝える。  ・相手と話し合ってお互いに気持ちをすっきりさせる。  ５ ごみ捨て担当のＡに対して、「Ａはごみ捨てに行かなくていいよ。ごみ捨てはＣに行かせればいい。」というＢ。あなたがその場にいたらどうしますか。  ・Ｃさんがかわいそうだから、ごみ捨て担当のＡさんが行くように伝える。  ・ごみ捨てに行く人をじゃんけんで決めるように提案する。  ６　今日考えたことで、どんなことが大事だと思いましたか。  ・次にまた審判をやるときはボールをもっとしっかりと見るようにする。  ・相手の迫力に負けないような強い意志をもつ。  ・周りの意見に流されない。  ・自分の考えが正しいと思ったら、相手にきちんと伝える。 | ・身近な問題を提示し、ねらいとする道徳的価値への方向づけをする。  ・学級、部活動など、日常生活の中から想起するように促す。  ・実名は出さないように配慮するように伝える。  ・本時の学習テーマを伝える。  ・物語の中での価値に迫る点を問う。(手だて①)  ・登場人物の個々の事情や、公一との関係を押さえ、心の葛藤を明確にする。  ・課題として考える部分を明確にするために、公一のやりきれない気持ちに触れた意見を取り出して課題につなげる。(手だて①)  ・文句を言ってくる中学生に対する意見が集中した場合には、中学生に対して「本当に言えるのか。」を問い、揺さぶりをかける。(手だて①)  ・「面倒くさい」や「やめる」という意見が出た場合は、「もし公一がアンパイアをやめてしまったらどうなるのか。」を問い返す。(手だて①)  ・揺るぎない態度で誰に対しても接し、正しいと思ったことを強い意志をもって最後まできちんと貫くことが大切であることを押さえる。  ・自分の気持ちとどのように向き合い、解決していくかを考え、実生活にて実践可能な方法を見出す。  ・周囲の雰囲気や人間関係に流されず、自分の強い意志をもつことの大切さを押さえる。  ・日常生活で実際に起こり得ることを体験的に味わうために、別場面での役割演技を行う。(手だて①)  ・子どもたちから出た意見に対して、「本当にできるのか。」を問い返し、揺さぶりをかける。  ・活動４、５、６で考えた内容をふまえて考えるように助言する。  ・誰に対しても公正公平な態度で接しようとしている児童の意見を取り上げる。  ・今後の活動について発言することができている児童を称賛する。 |

（５）　評　価

1. 周囲の雰囲気や人間関係に流されない公正公平な態度で接しようとする公一の気持ちに共感することができたか。　　　　　　　（活動３、４の発言、活動４の記述から）
2. 公正公平な判断をもち、周りに何かを言われても断固たる態度や行動をとることの大切さを知り、今後の生活に生かそうとすることができたか。

（活動３、４、５、６の発言、活動６の記述、その後の生活の様子から）

４　板書計画

1/31　　「アンパイアの心」　　公一はどんな気持ちだったのでしょう

　＜ちゃんとやったのに＞　　　　　＜やめたい＞

・お姉ちゃんだから

がまんしなさい

・弟が悪いことをすると

自分の責任に

・なんでぼくが片づけを

・じゃんけんに勝ったのに

・自分の思ったことを相手にきちんと伝える

・相手と話し合ってすっきりさせる　・周りの大人に助けを求める

どう考える？

＜ゆれる思い＞

・ジャッジを変えちゃおうかな

・いろいろ言われるとめんどうだから変えようかな

・しん判としてしっかり球を見る

・相手のはく力に負けない

・周りの意見に流されない

・自分の考えが正しいことを伝える

公平にするために

・文句を言うなら自分でやれ

・しん判をやると言わなけれ

ばよかった

・しん判なんてやめてやる

・一生けん命に判断したのに

・ちゃんと正しい判断をしたのに

・自分は集中して見ていた

・しっかり見ていないのはそっち

・中学生がなんで口出しをするんだ

ぼく・わたしだけ、、、